第１回アジア文化交流懇談会　議事要旨

日時：平成25年4月19日　18時00分～19時30分
場所：首相官邸４階大会議室
出席者：
（有識者）

猪子　寿之	チームラボ代表
北野　武	映画監督、俳優、タレント
コシノ　ジュンコ	デザイナー
迫本 淳一	松竹株式会社代表取締役社長
鳥井　信吾	サントリーホールディングス株式会社代表取締役副社長
長谷川　三千子	埼玉大学名誉教授
宮廻　正明	東京藝術大学教授、日本画家
森田 健作	千葉県知事、俳優
山内 昌之（座長）	東京大学名誉教授

（政府）

安倍　晋三	内閣総理大臣（冒頭のみ出席）
加藤　勝信	内閣官房副長官（政務）（冒頭のみ出席）
世耕　弘成	内閣官房副長官（政務）
杉田　和博	内閣官房副長官（事務）

議事概要：

1．安倍総理大臣挨拶

本日懇談会の冒頭、安倍総理より、「新しいアジア政策の柱のひとつである『アジアの新文化創造』に向けた政策立案のために意見をいただきたい。多様な文明、文化を包括するアジアが、「調和と融合」を果たしていく中で、日本の果たすべき役割、日本の貢献につき、議論いただきたい」旨、挨拶がありました。

2．座長選出

座長として、山内昌之東京大学名誉教授が指名されました。

3．各委員の問題意識と懇談会での検討課題

懇談会メンバーから、自己紹介、アジアとの関わりなどにつき表明があり、今後の懇談会で検討していくテーマ等につき、自由に幅広く、出席者の関心領域や考えの意見交換を行いました。基本的な考え方や、具体的なテーマなど、多岐にわたる主な発言趣旨は、以下のとおりです。

・文化について、20 世紀の延長として 21 世紀をとらえるか、未来につながる 21 世紀ととらえるか、アプローチの違いがある。日本以外のアジア諸国は後者が多い印象である。たとえば、20 世紀は著作権でビジネスができたが、インターネットの普及など情報化社会の変化に、対応していくことが求められているのではないか。
・たとえば、アニメをきっかけとして、人の行き来、交流が増えることで、交流が線になり、面になっていくのではないか。
・ユーラシア大陸では古代から「 草原の道 」「 シルクロード 」「 海の道 」がある。大陸から伝わってきた文化は、西欧の文化に各地域の文化を織り込みながら伝わってきた。一方海の道の文化は、東南アジアの王朝を経由し土着の文化や信仰が独自性を保ったまま、混ざり合うことなく交流してきた。
・日本の優れた複製作成技術により、文化を占有することから、共有することに、価値観を変化させる方向にいくべきではないだろうか。
・映画の世界でも、国際映画祭での上映は、35mm フィルムでなく DVD が多くなってきている。素材などの変化がある中で、国によって、物価も違い、上映権料も大きく違う。国によっては、上映開始前に、海賊版が出ることもある。
・アジアとして上手くまとまっていくためのきっかけとして、たとえばアジアの野球リーグを作ることも良いのではないか。言葉の問題などはあると思うが、メジャーリーグで南米の選手達が主力として活躍しており、地域の一体化に貢献しているように思う。
・国が、どのように文化と関わるのか。「文化財保護的な視点」と、「将来に向けての文化の活性化」の 2 点があるのではないか。特に、文化とは、民間が自由に自助努力で育んでいくものであり、政府は、その民間のエネルギーを発露できる環境づくり（税制の工夫など）に努めることも一案である。
・アジアという熱帯雨林地域は、多様な植物により、伝統的にもさまざまな料理、が存在する。欧州の料理なども土着のものが洗練されて、世界的に認知されるものとなった。アジアの料理も洗練され、ポピュラーになりうると考える。
・文化の概念は広い。懇談会では文化とは何かという文化論を考えていくことも求められるのではないか。
・アジアの文字は、芸術的と思う。土地の人が考えたわかりやすい象形文字のようだ。現地に行って、互いの文化を認めていくことが大切なプロセスと考える。
・人間というものは、不確かで分析できない存在であり、そこから生み出される文化も融通無碍なものでないか。

4．今後の進め方の確認

今後の懇談会の進め方としては、月１回を目処に開催し、アジア諸国視察も検討することが確認されました。

以上